

令和元年度 富山県衛生研究所 研究成果発表会プログラム

日時 : 令和元年11月8日(金) 14:30~16:30
場所 : 富山県薬事総合研究開発センター 創薬研究開発センター大会議室
(射水市中太閤山 17-1)

1. 開会・衛生研究所の概要 (14:30~14:45)

2. 基調講演 (14:45~15:15)

感染症サーベイランスとリスクアセスメント

所長 大石 和徳

感染症サーベイランス(患者サーベイランス及び病原体サーベイランス)は市中の感染症発生動向を監視し、感染症対策を評価することを目的としています。また、予防接種等の感染症対策の評価には感染症流行予測事業における健常者の血清疫学調査結果が利用されています。感染症サーベイランスの事例別に、データの解釈と問題点について考えます。

3. 研究成果発表 (15:15~16:30)

① 富山県におけるマダニ媒介性感染症の病原体検索

ウイルス部 主任研究員 佐賀 由美子

マダニによって媒介される日本紅斑熱や重症熱性血小板減少症候群(SFTS)の患者の報告は県内ではありませんが、新潟県で日本紅斑熱の、石川県でSFTSの報告があります。これらの病原体が動物の移動に伴って県内に入ってくる恐れがあります。今回は、県内で採取したマダニや動物における日本紅斑熱やSFTSの病原体検索結果について報告します。

② 薬の効かない細菌による感染症について

細菌部 研究員 内田 薫

抗菌薬は細菌による感染症の治療に使われる薬です。抗菌薬には様々な種類がありますが、そのひとつにカルバペナムといわれるグループに分類される薬があります。近年、この薬剤が効かない細菌による感染症(CRE)が問題となっています。当所では、2015年よりCREについて調査を行ってきました。今回は、その調査結果について報告します。

③ 富山県で捕獲されたイノシシの病原細菌および薬剤耐性菌の保有状況調査

細菌部 主任研究員 木全 恵子

近年、イノシシやシカなどの野生動物肉(ジビエ)の料理を食べる機会が増加しています。しかし、野生動物はヒトに病気をおこさせる細菌(病原細菌)を保有している場合があることが報告されています。本発表では、富山県で捕獲されたイノシシの病原細菌の保有状況について調査した結果を報告します。